

「超上流工程における要求分析への科学的アプローチ研究会」 活動報告

Study group on applying scientific approach to requirements analysis in super-upstream process of information system development project -- activity report --

中西昌武[†]

Masatake Nakanishi[‡]

[†] 研究会主査; 名古屋経済大学 経営学部

[‡] Group chairperson; Faculty of Business Management in Nagoya University of Economics.

発表の概要

「超上流工程における要求分析への科学的アプローチ研究会」では、平成27年度と28年度の2カ年にわたり、主査が手がける概念フォームモデルの応用を核としつつ、要求分析分野の技術開拓や応用に意欲的に取り組む事例を取り上げ、発展可能性や課題について積極的に議論を重ねてきた。もともと厄介な問題をはらむ領域であることから一足飛びに結論を出せる段階ではないが、それなりに共有点も見出せ、方向性が見えてきた。ここでは、現状報告と展望について述べる。

1. 研究会のテーマ趣旨について

当研究会（略称：超上流研）は、以下のテーマの研究を目的として2015年に設立された。略称：超上流研である。

情報システム構築の超上流工程で重要な座を占める要求分析プロセスに対し、科学的アプローチによる新たな手法の可能性を探究するとともに、問題意識と研究の志を共有する若い情報システム学徒の育成を目指す。

研究会の役員構成は、主査を中西、幹事を松平和也（(株)プライド）、北村充晴（(株)プライド）、小久保幹紀（(株)システムフロンティア）の3名構成とし、主に(株)プライドの会議室をお借りして年間5回程度の勉強会を催している。毎回、10名から20名ほどの参加があり、学会員以外の人にも開かれた活発な活動を行っている。申請時のテーマ趣旨として、以下の宣言文を掲げたが、この趣意は現在も変わらない。

システム構築プロジェクトの要求分析プロセスは、これまで、さしたる理論的恩恵が与えられないまま今日に至っている。ノウハウは多いが理論の裏づけに乏しく経験やスキルに多くを頼む技芸の域を出ていない。だが、物理学の理論が人々を安心安全に鉄道や航空機で運ぶことを保証したと似た意義で、要求分析のプロセスにも理論的ベースを与える余地があるのではないか。申請者が第10回情報システム学会全国大会でBP賞を受賞した論文「パス歩行行列を媒介した帳票検討プロセス」は、そのような動機で提案したものであり、そこでは数理科学的アプローチを適用していた。

要求分析プロセスは、論理的整合性と情緒的不合理性と打算的利害性が錯綜する工程であり、理論的整備という面では今なお未踏の地である。複雑で多様な活動局面を抱えており、手法ひとつで鮮やかに問題解決できる領域では決してないが、個々の断面に対しては数理科学的恩恵が期待できる余地がある。当研究会では、申請者が提案したアプローチを切り込み口として、ささやかな挑戦を試みたい。また他の科学的アプローチとの接点や接合可能性も合わせて探りたい。

数理科学を応用した要求分析の切り口からは、沢山の派生的研究が可能であり、ぜひその夢を若い世代の方々と分かち合っていきたい。この研究会活動を通して若い世代の研究者が育つ機会ともしたいと願っている。対象領域は豊かであり、若手育成を目指すべく、当研究会を申請する。

活動は、毎回、発表者を決め、発表された内容について、とくに実務課題を理論的に解決する可能性に焦点を当てた議論を心がけている。外部講師に講演を依頼することもある（赤俊哉氏、児玉公信氏）。

2. 活動内容

現在、2年度目を迎えている。

1年目（2015年度）は、延べ5回の研究会に加えて学会併設ワークショップを実施した。

開催	開催日 場所	参加者	報告者 (敬称略)	題目
第1回	2015.5.25 プライド社	10名	中西昌武	概念フォームによる仮想定ノードの扱いの実機による報告
第2回	2015.7.27 プライド社	15名	後藤秀宣	概念帳票理論の行列を使った算法の解説
			藤原紀章	解釈学的データ中心アプローチと「ビジネス・オントロジー」の提唱
第3回	2015.10.5 在韓 YMCA	16名	中西昌武	要求分析と情報資源管理 ～高嶺の花の時代から実践の時代へ
			西野嘉之	エクセルを有効活用した情報資源管理アプローチによるヘテロな実装データの統合管理
ワークシ ョップ	2015.11.21 慶応大学	12名	中西昌武	要求分析の理論化はどのように可能か？
			後藤秀宣	概念帳票理論の実装例の紹介
第4回	2015.12.14 プライド社	10名	高木徹	形式的アプローチによる Data Processing System の設計
第5回	2016.2.15 プライド社	18名	芳賀正憲 伊藤重隆	情報システムの科学と技術・・新情報システム学<体系化本論>への構想を語る！

2年目（2016年度）は、これまで2回の研究会を実施しており、あと2回の開催を予定している。

第2回は、関西を地盤とする IT 勉強宴会様とのコラボレーションにより多数の参加者で賑う恵みがあった。

開催	開催日 場所	参加者	報告者 (敬称略)	題目
第1回	2016.7.11 プライド社	15名	赤俊哉	いま問い直す！ ユーザー要求を正しく実装へつなぐシステム設計のセオリーとは何か？
第2回	2016.9.10 名古屋経済 大学名駅サ テライト	21名	中西昌武	方法論の成り立ちから要求分析を考えてみる。
			下地忠史	データ・ライフサイクル管理思想のウェブアプリ生成ツール Rmenu で要求分析用の紙芝居を作ってみよう！
			佐野初夫	業務システムの見積もり手法と正確な見積りを出すノウハウ
第3回	2016.12.5 プライド社	予定	児玉公信	(仮題) 企業の基幹情報システムの一般モデルとアーキテクチャ
第4回	2017.2月 プライド社	予定	中西昌武	(仮題) 超上流要求分析の科学化について2年間の学びを総括してみよう！

(展望) 要求分析の理論化は険しい登山である。しかし希望の道筋が見えて来たことは確かである。

最後に、研究会活動に対し情報システム学会様から補助がありました。研究会を代表し、記して感謝します。